

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	6 教育内容・方法・成果（研究科）《全学的な視点》	
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示	
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。	
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法	
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	
要素		

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各研究科の、課程・専攻ごとに教育目的を学生に明示し、社会に公表する。	→学則、本学ホームページにおける人材養成目的の明記		A			
2. 学位取得プロセスモデルを学生に明示する。	→規程、内規、履修心得での学位取得プロセスの明記		B			
3. 標準修業年限内の博士学位授与率を上げる。	→博士後期課程入学から博士学位取得までの平均年数や授与率など		C			
4. 教育研究上の目的、教育課程の編成・実施方針を適切に管理し、定期的に検証を行う。	→カリキュラムを検討する委員会の開催		B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.1.1	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(学位授与方針) 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。 博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。 専門職学位課程は、専ら高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養うことを目的とする。 修士の学位は、本大学大学院博士課程前期課程又は修士課程を修了した者に授与する。 博士の学位は、本大学大学院博士課程を修了した者に授与する。 専門職学位は、本大学専門職大学院専門職学位課程を修了した者に授与する。 (説明) 全研究科、学則ないしはホームページにおいて人材養成目的を明記しており、進捗評価はAである。 それぞれの課程の教育目標、修得すべき学習成果は、学則、ホームページ等で明記されている。 学位授与方針は、各研究科の教育目標から整合的に導き出されており、適切である。 「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」の施行に伴い、教育目標、人材養成目的を整理し、公開していくことが必要となる。
★小項目6.1.2	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(説明) 13研究科中12研究科において学位取得プロセスモデルを履修心得で明示している。 教育課程の編成・実施方針、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示を学則、内規、履修心得で行っている。 ホームページにおける公表について、教育情報の公開の観点から、今後速やかに検討を進める必要がある。
小項目6.1.3	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない
	(説明) 学則、研究科内規、履修心得、ホームページによって、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が公表されている。それぞれの研究科内においては構成員に周知できる体制にはあるが、社会への公表という観点からは、ホームページへの体系的な公開方法を検討する。
小項目6.1.4	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	各研究科では、研究科委員会、研究科教授会、研究科長室委員会等において大学院カリキュラム検討のための組織をもっており、大学院教務学生委員会を中心に常に教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について検証を行っており、教育課程の改訂や内規の改正などを精力的に行っている。内規、学則の改正については大学院教務学生委員会において報告、審議しており、常に各研究科の取り組みを共有できる仕組みになっている。
その他	標準修業年限内での博士学位授与率を上げるために、学位取得プロセスモデルを明示するなどの方法を取っているが、それに加え、新中期計画において博士課程後期課程研究奨励金の採用者数増などの施策を実施し、学位取得の促進につなげている。

《評価指標データ》

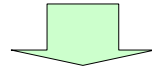
- カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
- 必修・選択ごとの開設授業科目数
- 系列別卒業必要単位数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	全研究科、学則ないしはホームページにおいて人材養成目的を明記している。
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

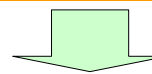
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」が施行されたことにより、適切な方法で教育研究活動情報を公表する必要がある。これに対応するためにも、ホームページにおいて、項目ごとに整理して教育研究情報を公表する。
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	大学院の教育目標等の周知方法は履修心得などの冊子媒体が中心で、ホームページにおいて項目ごとにわかりやすい周知形態がとられていない。
小項目6.1.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	「教育情報の公表」を適切に行うという観点から、今年度内に、ホームページにおいて学位取得プロセスモデルや、教育課程の編成・実施方針を項目ごとに明示する。
小項目6.1.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

- おおむね着実に前進していると判断できます。
- 「現状の説明」その他にある、研究奨励金採用者数増の効果が期待されます。実施に際しては、データを残して、取り組みの効果や意義の確認をすることが望まれます。
- 全体として言えることですが、問題点の改善もさることながら、長所を発見して努力の成果を確認することも、モチベーションや関学ならではのアイデンティティを意識することにつながるので、大切です。

【学内委員】

- この項目については、目標の達成に向けて概ね適切な努力がなされています。
 - 博士学位の授与のうち、課程博士の学位の授与数は少しずつながら増加していることが大学基礎データから明らかです。しかし、それらが標準修業年限内のものであるか否かは不明です。それがわかるようなデータの作成が望まれます。また、社会的な意義を考えると乙の学位授与も重要であると思います。
 - 大学院における人材養成の目的は示されていますが、学位授与の方針は示されてはいません。大学（学部）でのDP、CPを参考に大学院における、DP（学位授与方針）とCP（教育課程の編成・実施方針）を早急に定め公表してもらいたい。
 - 記述にもあるように、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針については、社会への発信を考え、受験生を含め学外者から見やすい方法により、積極的に、また効果的に公表することが求められます。その際、ホームページでの公表は必須です。
 - 目標3にある、博士学位授与率は本項目における内容ではありません。「6.4 成果」ではないでしょうか。
 - 「学校教育法施行規則改正に伴う教育情報の公表」の趣旨を十分理解され、積極的な取り組みが期待されます。
- 昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。
- ・教育目標、人材養成目標はHPで公表しておりますが、それに基づいた学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が示されているのか、今一度悉皆的に調査をお願いします。
 - ・学位授与方針については、学生への便宜ではなく、必ず学生に提示すべきものです。この点についての説明をお願いします。
 - ・小項目6.1.4については大変検証が難しいと思いますが、定期的な検証がなければ改善に結びついていきません。体制があっても実施していなければ検証にはなりませんので、定期的な検証を促す案内を行なうなどシステムの構築をお考えください。目標の4の実現が期待されます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目6.1.1
基盤評価：「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を、理念・目的を踏まえ、設定していること」
達成度評価：なし
- 小項目6.1.2
基盤評価：「学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること」
達成度評価：なし
- 小項目6.1.3
基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること」
達成度評価：なし
- 小項目6.1.4
基盤評価：なし
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

追加記載なし。

☆